# 50 スマート農業技術活用促進総合対策

# 令和8年度予算概算要求額 5,320百万円(前年度 1,686百万円)

### く対策のポイント>

現場課題の解決に向けて、ロボット、AI、IoT等の先端技術を用いた省力化・効率化を可能とするスマート農業技術の開発・供給を推進するとともに、ス マート農業普及のための環境整備を行い、スマート農業の社会実装に向けた取組を総合的に展開します。

技

術

開

発

供

及に

向

け

### く事業目標>

スマート農業技術の活用割合を50%以上に向上 [令和12年度まで]

## く事業の内容>

## 1. スマート農業技術の開発・供給促進事業 4,602百万円 (前年度1,023百万円)

スマート農業技術の開発・供給を加速化する取組を支援します。

- ①重点課題対応型研究開発(農研機構対応型)
  - ②重点課題対応型研究開発(民間事業者対応型)
  - ③低コスト・小型化等現場ニーズ即応型開発

  - ⑤技術改良・新たな栽培方法の確立の促進
  - ⑥スマート生産方式SOP(標準作業手順書)作成研究

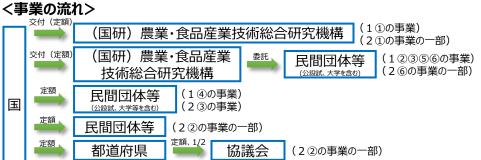
#### 2. スマート農業普及のための環境整備

718百万円 (前年度663百万円)

- スマート農業を普及させるための環境整備を行います。
- ①農林水産データ管理・活用基盤強化
- ②データ駆動型農業の実践・展開支援事業
- ③農林水産業におけるロボット技術安全性確保策検討
- ④スマート農業教育推進

民間団体等

- ⑤次世代の衛星データ利用加速化事業
- ⑥スマート農業イノベーション推進会議(IPCSA)の運営



(245)、216の事業の一部)

# く事業イメージン



双腕型ロボットアームと 模倣学習等のフィジカル AIによる高難度作業へ 🇸 葉を除けて収穫

④AIやロボティクス等のユニークな技術 シーズを有する高専や職業能力開発 大学校等と民間事業者が連携した

独自の発想に基づき 開発されるシンプルなトマト収穫ロボット

②民間事業者による 重要・高難易度な技術の研究開発 【例】なしの管理作業(摘果)ロボット

⑤開発事業者とサービス事業者が連携 した技術の質的向上や技術に適合し た新たな栽培方法の確立

【例】技術のユーザビリティの向上 改良





【例】中山間地域向けの 管理作業機の小型化 (非乗用型への転換など)

③中山間地域等の生産現場のニーズを

踏まえた即戦力となる低コスト・小型

化等の技術の研究開発

⑥技術の導入効果を着実に発揮させる 栽培体系やサービス事業者を介した 技術の運用方法等の検証、標準作 業手順書 (SOP) の作成

【例】自動収穫ロボットの導入効 果を最大化するための栽培管理

# 2. スマート農業普及のための環境整備



データ収集・分析機器の活用

生産性・収益向上に 結びつける体制づくり等



等の検証及び安全確保策の検討

⑥スマート農業イノベーション推進会議

④スマート農業教育推進



オンライン講座、体験型研修

衛星データ活用技術の 構展開

・衛星活用技術の試験的導入 利活用のマニュアル作成

生産方式 利活用に向けた

(IPCSA) の運営 **IPCSA** 

#### スマート農業の社会実装・実践

農林水産技術会議事務局研究推進課 [お問い合わせ先] (03-3502-7462)